

令和4年度 第2回美浜町総合教育会議 会議録

開催日 令和4年11月8日（火） 午後1時00分～3時05分

場 所 美浜町保健センター 小会議室

出席者 町長 齋藤宏一町長
委員 大岩絵里子教育長職務代理者
石垣由貴子委員
神谷英明委員
天木恵次委員
野田有美香委員
齋藤正吉委員
伊藤守教育長
職員 夏目勉教育部長
近藤淳広学校教育課長
山本圭介生涯学習課長
竹内稔博指導主事

開会 午後1時00分

1 齋藤宏一町長あいさつ

町長：これからの美浜の教育に関して、幅広くご意見を伺いながら、学校再編と小中一貫校が少しでも早く実現できるようにしたい。本日はよろしく願いします。

2 議題（議長：町長）

（1）小中学校再編について

事務局説明（学校教育課長）：学校再編のための検討スケジュールについて

- ・保護者説明会、住民説明会、先進地視察、広報みはまの計画など
- ・学校再編検討委員会、学校再編推進委員会など検討組織について

① 保護者説明会について（85名参加）各小学校において、9月～10月実施

(参加者アンケート結果より)

- ・わかりやすい資料と説明だった。将来の学校がイメージできた。
- ・人口減少を食い止める手だてを町として考えてほしい。

② 町職員への説明会について (144名参加) 10月19日、20日実施
(参加者アンケート結果より)

- ・美浜町のためにしっかりやっていきたい。

③ 夢づくりワークショップについて (36名参加)

- ・第1回ワークショップ (10月28日実施) の内容紹介。
- ・町内6地区、地区ごとに集まってワークショップを進める。

(2) 美浜の特色ある教育活動について (映像で紹介)

- ① 日本福祉大学との連携
- ② 小・中学校英語教育
- ③ 授業力向上

- ・教育委員：英語の力がすごい。英語で聞いて英語で答えている。
- ・教育委員：日本語変換をしていない、子どもたちの吸収力はすごく速い。

意見交換

町長：平成3年に町長になった。小中学校の改築や建設を進めた。当時は、こんなに少子化になるなど、夢にも思わなかった。これから30年後、美浜町の人口はどうなるのだろうか。現状のままでいくとますます少子化となるであろう。魅力ある学校を作れば、人口も増えていくことが期待できる。

旧河和南部小学校には、今、新しい企業(マグネデザイン)が来ていただいている。なぜ、美浜町にそんな立派な企業が来ていただけたか。これはご縁である。学校再編を進めるには、財政の問題や用地の問題もある。そういうことも考えあわせながら、まずは場所の選定をしていきたい。美浜町で、魅力ある学校を造り、立派な子どもたちを育てたい。ここを卒業した子どもたちが世界で活躍してほしい。大学の活用も考えたい。

教育委員：今年度になり、ようやく小中一貫校について、情報発信、情報公開ができるようになってきたと感じる。町長にお願いがあるのだが、「これからすごい学校を作っていこう」というアピールを、町長さん自ら様々な場所で話していただきたい。町長の言葉で聞くと、町民の意識も高まると思う。

町長：ご意見ありがとうございます。どこの地区も、自分の地区の学校に愛着がある。だ

から「なんで統合しないといけないのか」ということもわかる。しっかり発言していく。

教育委員：それぞれの立場の方が、それぞれの考えを持っている。

町長：上野間小学校は鵜の糞を売って作った糞立小学校（笑）である。どこの学校も伝統があり、おらが学校という思いはあるもの。そうしてみると、河和南部小学校の学校再編の際には、地区の保護者や住民のみなさんに丁寧に説明を重ねてくれたおかげで、本当によく理解していただき、納得していただけたものだと感謝している。

教育委員：自分の地区の学校、子どもを育てたいという気持ちはわかる。美浜の財産として新しい学校ができるんだということを伝えていき、理解をしてもらいたい。

町長：河和小学校のスクールバスは順調に運行しているか。

学校教育課長：とても順調である。地域のスクールガードや地域の方が毎日見守ってくれているおかげである。

教育委員：お手伝いしたいけれどなかなかできないという社会になっているが、美浜町の住民は上手にやれている。すごく温かい環境ができています。河和南部小学校の統合も、丁寧に何度も説明して進めてくださったのがありがたい。

教育委員：小中一貫校では、お年寄りも元気になれる地域に開かれた学校になるとよい。

町長：美浜町には、世界中にここにしかないものがある。まずは「鵜の池」。人間と鵜が共生している場所は他にはない。次に、幕末の漂流民「音吉の歴史」。シンガポールに初めて行った日本人。日英和親条約のときの通訳。日本の中で美浜町にだけある特性である。それに、源義朝の「野間大坊」。これも大きい。これらを、上手に SNS などでもうまく PR するとよい。PR と言えば北方の喫茶店はすごくはやっている。河和南部では、富谷牧場から矢梨の新池までのコースはとても景色がよい。小野浦の山道も最高。海岸がぜんぶ見える景色がある。「愛知県美浜自然の家」をもっと活かしたい。美浜町は魅力いっぱいの場所がたくさんある。河和には、「河和城」がある。あれだけの土塁が残っているところはなかなかない。河和城の御朱印（御城印）は人気がある。矢梨のナチュラル村跡地も、あのあたりを活かすともっと変わってくると思う。

教育委員：学校再編ワークショップの時、ホワイトボードに鈴木先生がキーワードを書いていた。学校のことをわいわいとしゃべった。そのときに授業のことは出てこなかったが、給食とか、先生のよさとか、自由な意見が出ていた。

教育委員：給食のことはたくさん意見が出た。「地域の人が給食を食べにいけるような学校がいい」という意見もあった。こんなふうに大人になってもよい思い出が残るような学校を作りたい。こういう気持ちがワークショップで高まるといいと思う。

教育委員：去年の河和南部小学校の閉校行事の時、高校生や大人がたくさん参加してくれた。小中一貫校も、卒業した大人たちが帰って来られたり、関わっていける学校になるとよい。母校の思い出はいつまでも強く心に残る。

教育委員：大人が、「自分の子どもここに通わせたい」と思えるとよい。

学校教育課長：ワークショップ参加者の感想を紹介する。「魅力ある学校になると、人を呼ぶことができると思う」、「ワークショップは楽しかった。前向きで元気になりました」、「希望がもてました。田舎ならではの都会に負けない教育が受けられたら最高です」など、前向きな意見が多かった。

町長：田舎ならではの子どもたちが楽しめる体験活動、受け入れ活動ができる。自然を生かす。体験農園など。美浜町には大学もある。大学生もいる。美浜で農業やりたいという人もでてくるかもしれない。そんな広がりがあるとよい。田舎ならではの魅力ある小中一貫校にしたい。

教育委員：今年度、小中一貫校に向けて、大きく動き出したことをうれしく思っている。

教育委員：先日、河和小学校の枯れ松の伐採作業をした。校舎を見あげながら、学校への愛着を感じた。自分の通っていた河和小そのままだった。学校がなくなると寂しいという思いと、新しい学校に孫を通わせることが夢という思いがある。孫を通わせたいような学校を創りたい。

教育委員：愛着がある学校という言葉に感銘を受けた。寂しい気持ちもあるが、新しい小中一貫校が具体的になると夢が広がると思う。

教育委員：子供の成長は希望である。

教育長：学校再編について、少しずつ説明を始めたところだが、みんなの「意見を聞く」というのはとても大事だと思う。誤解をされている人もいる中で、直接話をするとなんか分かってもらえる。コミュニケーションをとることはとても

大事。さまざまな価値観があるので、全員に理解していただくことは難しいが、よりよい方向へ、「子どもたちのために」という柱だけはぶらさずにいきたい。

教育部長：小学生の親として、美浜町の教育は素晴らしいと思う。小さな小学校が多い中で、1年生から6年生までクラス替えがない。クラス替えは必要、大事なことだなと感じている。同級生の中でのポジションが固定化してしまうが、クラス替えがあるとそれが薄まる。人間関係の固定化を考えたときに、やはりクラス替えがあるのがよいと思う。教育環境を作るのは大人の責任。よりよい教育環境を作っていきたい。

町長：やっぱりクラス替えがあると混ざる。それはよいことだと思う。それぞれにチャンスができてくる。それぞれの個性の目が出てくる。

教育委員：そのためにも場所を早く決めたい。

教育委員：通学のことを考えると、同時に道路整備も必要となるのでは。

町長：場所の選定は、みんなが納得できる場所をしっかりと検討する必要がある。

3 伊藤教育長あいさつ

教育長：特色ある美浜の教育を進めながら、しっかりと意見を伺い学校再編を進めていきます。子供たちの意見も聞きながら進めていきたい。今後、建設場所が具体的に決まってくると、より具体的に話が進むと思う。

教員人事についてはとても大事だと考えている。令和10年度開校とした場合、町内7校のうち、校長先生は2人になり、教職員の何人かは、小中一貫校に勤めてもらわないといけない。（教員人事は、美浜町だけではなく、知多地域全体で考えるので）今年度末の人事異動から要望を出しながら進めたい。令和10年開校を目指してやれることを着実にやっていく。

町長：そう思って、伊藤教育長に来ていただいた。今後ともよろしく願います。

以上

閉会 午後3時05分